



今月は「グルジア」を覚えてお祈りください

グルジア(ジョージア)は、南コーカサスにある共和制国家。東ヨーロッパ、もしくは西アジアに区分される。日本では 2015 年 4 月まで政府が使用していた外名の「グルジア」としても知られている。コーカサス山脈の南麓、黒海の東岸にあたる。北側にロシア、南側にトルコ、アルメニア、アゼルバイジャンと隣接する。首都はトビリシ。

グルジアの経済・政治・宗教について

農業に適している土と温暖な気候に恵まれているグルジアは、果物、紅茶、綿、ワイン等の生産に加えて観光業が盛んである。近年は工業やサービス業も増えている。税制度の革命や不正なお金の動きを規制する政策、さらに民営化が進み、国外から好意を得ている。将来的にも水力発電や、ヨーロッパとアジアをつなぐ場所として物品やオイルやガスの流通による経済活動の展開が期待されている。

グルジアは古来数多くの民族が行き交う交通の要衝であり、幾たびもの他民族支配にさらされる地でありながら、キリスト教信仰をはじめとする伝統文化を守り通してきた。1991 年に独立し、1995 年には社会的に安定した。2004 年に選挙が行われるまでは特裁的な大統領が治めていたが、大きな進展はなかった。ところが、2004 年以降は民主的な進歩がめざましい。

長年にわたりグルジアの東方正教会がグルジアの文化とアイデンティティを守ってきた。グルジアとその隣国のアルメニアはイスラム教に属しているいくつかの小さな民族に囲まれている。また、2005 年からは東方正教会以外の信仰に属することも認められ、国民には信教の自由が認められている。

グルジアのその他の情報

面積:69,700 km² (日本の約 18%) 人口:4,219,191(日本の約 3% 2010 年時点)



宗教:	
キリスト教	78.67%
イスラム教	11.30%
無宗教	9.58%
ユダヤ教	0.25%
その他	0.20%

北西部に位置する歴史的な地域「スヴァネティ」 首都「トビリシ」 ジョージアはワイン発祥の地

「天よ。喜び歌え。地よ。楽しめ。山々よ。喜びの歌声をあげよ。主がご自分の民を慰め、その悩める者をあわれまれるからだ。」 イザヤ 49:13

祈禱課題

少数民族の霊的必要性を覚えて

国内にいくつもある少数民族に福音とその祝福を最も効果的に伝えることができるのはグルジア教会に所属している大多数の信徒たちだ。しかし、実際に宣教するためには働き手を訓練し、送り、支援しなければならない。イスラム教に属するグループへの宣教はほとんどないが、バプテスト教会に所属する少数の者たちがこの働きのために訓練され送られている。グルジア教会内にさらなる宣教熱と同胞たちへの救いの重荷が必要だ。特に下記の民族グループのための働きが必要とされている。

「アブハズ人」—このグループの大多数はグルジア教会に属しているが、少数のイスラム教徒もいる。彼らが持っている信仰感や生活様式はむしろ土着宗教的だ。グルジア北西部の郊外に暮らす彼らに対する宣教にはアブハズ人文化への精通と霊的な突破が必要だ。

「ユダヤ人」—グルジアに暮らすユダヤ人に対する宣教活動については報告されていない。グルジアは過去にはユダヤ人を保護してきた歴史を持つが、近年は社会の中に反ユダヤ的思想が広がりつつある。

「キシユ人」—チェチェン人たちと親戚である彼らは主にパンキシ渓谷やその周辺に住んでいる。キシユ人の多くは貧しい。主な宗教はイスラム教(スンニ派)だが、彼らの中にもキリスト教やその他の宗教による影響が見られる。

「メグレル人」—400,000 人いるが主に東方教会に属している。しかし、これは生まれながらの所属を意味している。彼らの多くは実際的には無宗教的な考えを持っている。

「スヴァネティ人」—西の山脈や僻地の村々に暮らしている。これらの地域はチェチェンによって度々攻められてきている地域で大変危険だ。スヴァネティ人の多くは未伝部族である；彼らの中には東方教会員の者もいるが、信仰やイエスによる救いについてはほとんど無知である。ペンテコステ信仰をもつ一組の夫婦が彼らの中で宣教している。

「アゼルバイジャン人」—イスラム教に属しているが、彼らの中には一つの地域教会があり、聖書も自分たちのことばに翻訳されている。また、イエスキリストの救いについての映画もアゼル語に訳されている。